



東学思想の造化定地観に現れたリミナリティ

Liminality in Donghak Johwajeong View of Earth

研究目的および背景

東学思想の理論的探究と現代的意義

- 01** 東学思想の造化定(造化定)地観(地観)に現れたリミナリティ(Liminality)の分析目的
境界性概念を通じた東学地観の新たな解釈の試み
- 02** 東学の自生的近代思惟と東西思想の衝突および融合に関する理解
西洋近代性と東洋思想の内在的發展が交差する地点の研究
- 03** 韓国近代思想と民衆宗教運動における意義
道教思想の流入と中国近世の鸞壇道教の影響の分析

東学思想の造化定(造化定)の地観の概念

東学思想のリミナリティ研究

造化定の地観(造化定地観)とは?

超越天から存在する地(地)の特別な認識論であり、東学思想において天と地の関係を新たに定義した概念

東学は既存の地観とは異なり、地を超越天の造化対象、無為而化、気化の存在として新たに認識



天と地の新たな関係性

超越天と内在天の区分に従い、地(地)も超越天の造化作用として理解される。地はもはや単純な物質的世界ではなく造化論的对象となる



修行と実践の領域としての地

東学思想は地を修行の領域へと拡張させる。君主のみならずすべての民衆が侍天主修行を通じて超越天と疎通しうる空間



造化、無為而化、気化の概念

造化定地観は「造化」「無為而化」「気化」の概念を通じて、西洋近代性と区別される東学固有の生命中心的世界観を形成

東学思想の成立背景と道教の影響

東学の自生的近代性の確立に関する考察

東学の思想的背景

東学の成立は西洋近代性の流入と東洋思想の内在的發展が会う地点においてなされる

天師問答以後、水雲の熟考と経験が加わり東学の地観が形成される。道教思想の影響が特に強調される

⇒ 道教思想の流入と影響

朝鮮に入った道教は大きく内丹道教(内丹道教)と通神道教(通神道教)に区分。内丹道教は修練中心、通神道教は神との疎通を強調。東学はこのような道教思想を受容し発展

📖 西学との関係および差別性

東学は西学に対する対応としての側面を持つ。西洋近代性が招来した弊害を認識し、東洋を救済する次元で提示された思想。西学の超越天概念と差別化されたアプローチを提示

📖 思想の展開と段階的發展

東学思想は四段階で発展①天師問答段階②隱寂庵執筆段階③絺石(絺石)を避ける方法を教える段階④水雲死後、東学農民革命に至る段階。各段階ごとに地観概念が深化

造化定の地観のリミナリティ様相

境界で現れる東学思想の知的特性

リミナリティ (Liminality) とは?

境界の間に位置する状態を意味する概念であり、既存構造と新たな構造の間の曖昧かつ転移的な中間領域を指す

東学思想の地観は儒教的地観と西欧近代的地観の間のリミナリティを示し、究極的には新たなパラダイム転換を暗示



超越天と調和した地の位置的境界性

東学思想において地はもはや天に従属する対象ではなく、超越天の造化対象として新たな存在論的位置を持つ。これは伝統的な天尊地卑(天尊地卑観念と近代的地球説)の間の境界に位置する



修行主体の境界解体

君主のみが地の気運を受けた儒教的観念から脱し、すべての民が修練を通じて超越天と疎通できるという思想への転換。聖(聖)と俗(俗)の境界が再編される自生的近代性の端緒



地気(地氣)と明堂の再解釈

東学は地の中心を再設定し韓国が明堂であることを強調することにより、「小中華」と「大中華」観念を超越。地の可変性と力動性を強調するリミナル空間としての地観を形成

西洋近代性との比較

東学思想と西洋近代性の対比的理解

地観(地観)の基本的観
点

西洋近代地観

天動説から地動説への変化
内在天中心、超越天を排除する機械論的宇宙観

東学の造化定の地 観

超越天と内在天の統合的理解
地を超越天の造化と気化の領域として認識

自然と人間の関係

西洋近代観点

自然を人間の道具として認識 開
発と利用の対象、分離された客
体

東学の生命思想

侍天主(侍天主)の観点から自然も天主に照応
地と人間の有機的関係、相生の対象

近代性の特徴

西洋近代性

機械論的自然観
理性による自然征服と活用

東学の自生的近代性

造化と気化に基づく生命中心思想 民衆の
主体性と修行を通じたりミナリティ

東学思想の鬼神論的天地関係

リミナリティの様
相

天地鬼神の再概念化

東学思想は「天地亦是鬼神、鬼神亦是陰陽」という表現で、既存の天地・鬼神概念を超越天的観点から再定立する

天地と鬼神の同一性を強調することを通じて、天の上の天という超越天を含む新たな天地関係を構築

「知天地而無知鬼神、鬼神者吾也」(天地は知っても鬼神は知らず、鬼神というのも我なり)



超越天的鬼神論の独創性

東学は既存の内在天としてのみ用いられていた鬼神という概念を超越天に初めて適用することにより、西学と儒学の限界を超えた統合的観点を提示



天地鬼神の同一性とリミナリティ

「天地亦是鬼神、鬼神亦是陰陽なるを」-天地と鬼神、陰陽の境界において形成されるリミナリティを通じて、西学と東洋伝統思想の中間領域を形成



陰陽論の拡張と統合

東学思想は陰陽の無限な拡張性を包容しつつも、超越天の造化と可変性を強調することにより、伝統道教と性理学の地観を超えた新たな世界観を提示

研究結果および意義

東学思想のリミナリティ研究

研究の核心的発見

東学の地観(地観)は単なる地に対する認識ではなく、リミナリティ(境界性)を通じた聖と俗の境界再編の試み

東学は外部的圧力と内部的発展の混合から誕生した韓国固有の自生的近代思想であり、西洋近代性に対抗する代案的価値体系を提示

学術的貢献

既存の東学研究において看過されてきた地観の革新性とリミナルな特性の究明

田 境界の再設定と民衆の主体性

東学地観は天地鬼神の概念を通じてエリートと民衆、聖と俗、天と地間の伝統的境界を打ち崩し、新たな実践的修行の場を開いた

↻ 韓国的自生近代性の知識論的土台

東学の造化定地観は西欧近代性の機械論的世界観とは異なる、有機体的世界認識と生命中心思维の根拠となり、独自の近代化の可能性を提示

🌿 現代的再照明と適用可能性

生態・環境危機の現代社会において、東学の造化定地観は自然と人間の調和的共存のための思想的土台として再評価されうる。特に有機農法と生命尊重思想へと繋がる

結論および今後の課題

東学思想研究の現代的拡張

研究の核心的結論

東学思想の造化定地観はリミナリティ(境界性)を通じて一般民衆に主体性回復の思想的根拠を提供する

超越天と内在天の新たな関係定立を通じて、西洋近代性と差別化された自生的近代性の道を提示する



東学地観の現代的適用可能性

生態学的観点から東学の地観は環境危機時代における人間と自然の共存的关系のための哲学的基盤を提供しうる



リミナリティを通じた民衆の主体性の回復

超越天・内在天の調和と気化概念を通じて、天尊地卑(天尊地卑)の二分法的世界観を超えた民衆の実践的主体性の確立



今後の研究方向

大巡思想との比較研究を通じた東学造化定地観の拡張性の探究、東アジア思想史における東学地観の位相を確立するための比較思想的アプローチが必要